

しみん基金・K O B E NEWS

Vol.50

2020年3月号



認定 NPO 法人しみん基金・K O B E

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203 (サンピア 2 F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

NPO 法人のビジネスモデル研究
— 講座の発展性を目指して

最近、経営学では「ビジネスモデル」という概念が注目を浴びています。「ビジネスモデル」とは、より良い顧客価値の創造・提供を実現し、収益力を向上させる仕組みを意味します。日本企業の国際競争力が低下し、収益力が悪化しているため、この概念が注目されるわけです。ではNPO法人の場合はどうでしょうか。統計上、全国には5万4千4百3のNPO法人があり(内閣府HP、2019年1月)、数の上ではコンビニと肩を並べるほどです。しかし、NPO法人の収益力を向上させるような研究・調査を見ることは殆どありません。

しみん基金こうべでは、ひょうこポランティア・プラザの助成を受けて、2013年から「地域計画をつくろう講座」を行い、全5回の伴走型で中期計画を策定し、NPO法人や組織の組織力強化と共に、収益力の向上を目指してきました。現在、講座を受講したフリースクール2組織を対象に、ビジネスモデル分析という研究・調査をしています。この研究を通じて、フリースクールがどのように良い顧客価値を創造・提供し、収益力を向上させるか、ひいてはNPO法人がどのように経営力を向上させるかといった点を明らかにしたいと考えています。

中期計画を作ろう講座講師

當間 克雄

(兵庫県立大学政策科学研究所教授)





2020年1月12日(日)に、「こうべあいウォーク2020」を開催しました。
このイベントは1999年より「1・17」の直前の日曜日に毎年開催してきましたので、これで22回目を数えます。

今回も、約50名の参加者の方々に朝早くからJR鷹取駅近くの大國公園に集まって頂きました。なかには、東北からの参加者もいらっしゃいました。

天気予報では傘マークが出ていましたが、雨は降ることもなく、例年に比べると暖かいぐらいの一日でした。3キロほどの道のりを3つのグループに分かれ、鉄人28号の立っている若松公園、震災前は木造住宅の密集地だったところが震災後の区画整理で防災公園として整備された水等通公園、震災から免れ昭和レトロな雰囲気を残す丸五市場、火災の被害が最も大きかった大正筋商店街などに立ち寄りながら、ゴール地点である「旧二葉小学校」までを、ガイド役や地元の人たちのお話を聴きながら、2時間半程かけて歩きました。

一昨年までゴールはみくら5でしたが、昨年より「旧二葉小学校」となり、ゴールでの炊き出しができませんでした。今年はコープこうべ職員有志の方々のご協力により、炊き出しの豚汁を復活させることができました。震災当時、思いをはせながら、熱々の豚汁をいただきました。

ご参加いただいた方には、受付時に募金(二口千円)を頂き、当日の経費を差し

震災25年！ 2020 心ウォーク

引いた11万8千4百91円を当基金にご寄付いただきました。
お預かりしましたこの寄付金は、2020度の当基金助成事業の助成金として活用させていただきます。

ご参加いただいたみなさまとご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

■主催：こうべあいウォーク

2020実行委員会
(NPO法人神戸まちづくり研究所、認定NPO法人まち・コミュニティ・シヨク、認定NPO法人しみん基金・こうべ)

■協力：近畿労働金庫

地域共生推進室

■会計報告

収入
当日募金 14万200円
協力金 3万円
収入合計 17万3千200円

支出

印刷費 8千500円
調理材料費 2万3百99円
プロパンガス代 6千8百30円
イベント保険料 7千500円
調理室代 8千400円
支出合計 5万6千29円
収支差額 11万8千4百91円



おすすめ BOOK



ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ
コレクティブな協働なら解決できる！

SDGs時代の複雑な社会問題

佐藤真久・広石拓司著 みくに出版 2018

古くて新しいキーワードである「協働」。本書は複雑な社会問題を多様な担い手のコレクティブな協働によるガバナンスで取り組んでいく、その道筋を示している。

第一部第2章では、「それぞれが自立して自分の判断で動いているにも関わらず、バラバラにならず協力関係を維持」する新しいコレクティブな協働へのシフトの必要性を説く。コレクティブな協働で不可欠なことは、それを通して

「学び」を得る関係であることだ述べられている。

第2部「コレクティブな協働ガバナンスの考え方・進め方12ステップ」では、すべてのステップが、「(1)このステップの位置づけ」「(2)このステップでぶつかりやすい壁」「(3)協働の考え方のシフト」「(4)このステップで実践・確認すること」「(5)このステップで実現したいこと」の5つからなり具体的な協働の進め方を提示している。

協働するそれぞれのセクターへのメリットが、「おわりに」にて述べられているが、それらが生まれるのは、

「コレクティブな協働には、社会的学習の機能が組み込まれていて、個人の成長、組織の成長、社会・地域の成長を促すことができるから」とある。学びあえる関係は社会をも変えていく、そんな協働への一歩を踏み出すために必携の一冊です。

2019年度「中期計画をつくろう！」講座終了しました

10月から開催していた、「中期計画をつくろう！」講座は2月27日(木)に無事終了しました。受講団体のフォローアップはこれから実施予定です。

ただ、この事業は採算性が厳しく、助成金頼みになっているため、今後については再度検討していく予定です。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け2月24日(月・祝)に開催を予定していた「共助を支える資金の流れを考えるシンポジウム」は、開催を中止いたしました。悪しからずご了承ください。



25年目のひとり言

「正しく恐れる」

中国・武漢で感染し始めた新型コロナウイルス肺炎は、瞬く間に感染が広まり、今や世界で16万人以上が感染、死者も7千人に近づいている。日本国内での感染者数も8百人を超え、1千人に届くのも時間の問題と懸われる。クラスターを避け、感染のピークを出来るだけ遅らせる目的で、政府は学校の休校、イベントなどの多くの人が集まる行事に自粛要請を行ったが、時すでに遅しの感を拭えない。残念ながら当基金主催の阪神・淡路大震災25年のフォーラムも諸般の状況を踏まえ開催を断念するに至った。ヨーロッパでの爆発的感染を受けて、経済は委縮し、リーマンショック以来の落ち込みが続いている。日本国内での感染を押し止めることが出来ても、その先にはもっと大きな問題が待ち構えているだろう。

そんな中、東日本大震災から9年目を迎えることになった。コロナウイルスによる自粛により式典等は中止となったが、こんな時期だからこそ災害(災厄)に対する心構えを思い出せてくれたような気がする。災害であろうと、災厄であろうと、どんな時でも、正しく恐れ、慌てず、置かれた状況の中で最善を尽くすこと。過去からの経験を正しく活かすこと、忘れてはいけない大切なことだと思う。感染の1日でも早い収束を祈りつつ。

しみん基金・こうべ 専務理事

瀬戸口 仁三郎

会員数とご寄付のご報告

- ◆ 正会員 個人31名 団体2 団体
- ◆ 賛助会員 個人42名 団体16 団体

(2020年2月末現在)

◆ 寄付・募金合計金額

54万7千7百37円

◆ 寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

中島秀男、飛田雄二、井上翔平、土屋博子、白水士郎、福原初子、今津由雄、中村保佑、田中かをり、山添令子、柳田邦男、小栗敦子、室崎益輝、井上由紀子、羽田英彦、オレンジスリフティ、㈱フルハウス、㈱フルハウス技研、㈱フルハウス技研関西、ヤフー㈱、(有)ボック、兵遊協福祉基金、ブックオフコーポレーション㈱、こうべあいウオーク2020実行委員会、成果報告会及びNPO法人ふおーらいふ

募金集箱

(2019年12月～2020年2月)

※皆様方からのご厚志に深謝致します。

クレジット決済もご利用頂けますのでご利用ください。当基金ホームページトップページの「クレジットサポーター」からアクセスできます！

Tポイントでもご寄付いただけます。

当基金ホームページのトップページにある「Tポイントでキフ」からお願いします！



「しみん基金・こうべ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間3千円
団体会員 年間1万円

お申し込みは電話・フアックス・メールなどでお名前・住所・電話番号をお知らせください。ホームページからクレジット決済も可能です。

★振込口座

三井住友銀行三宮支店

普通 8840183

みなと銀行本店営業部

普通 1969895

口座名義

「特定非営利活動法人しみん基金・こうべ」

近畿労働金庫神戸支店

普通 4161854

郵便振替

00990151157334

口座名義

「しみん基金・こうべ」

震災25年企画として予定していたシンポジウムがコロナウイルス対策のため開催することができません。急遽学校が休みになったご家庭は大変でしょう。一日も早く落ち着くことを願うばかりです。(と)